

1) 海洋文化に関する調査研究

木下 靖子¹・板井 英伸²

キーワード：海洋文化、人類学、サバニ、植物利用、民俗誌、地域連携

1. はじめに

本事業では、アジア・オセアニア、沖縄（琉球列島）の海洋文化に関する調査を行い、現状の把握と変遷の分析、持続可能な地域資源、環境保全との関わりについて研究することを目的とする。

研究成果は書籍等出版物により発信した他、海洋文化館における展示、講座、企画展、ワークショップを企画、実施し、海洋文化研究の普及啓発に取り組んだ。

2. 調査概要

1) 琉球列島の木造船・航海等に関する調査

6月1～3日、奄美大島原野農芸博物館の招聘を受け、沖縄のサバニと源流を同じくする丸木舟スプネの展示に関する調査と助言を行った。地域の文化保護活動について情報交換を行い、海洋文化館の展示解説に活用することができた。

また、令和2年度に南城市奥武島の嶺井藤一氏と孫の尚人氏に造船技術継承のため、漁業用サバニ建造を依頼し、その全過程を記録した。今年度、尚人氏は一人で本サバニ（航空自衛隊那覇基地所属の隊員からなるハーリーチーム、レキオウイングが9月に発注）の建造を行い3月に完成、進水式を行った。本研究により、沖縄における木造船の技術継承という目的を達成することができた。

2) 船漕ぎ儀礼と来訪神儀礼調査

8月4日名護市安部地区の海神祭（ハーリー）、9月22日名護市安部地区の豊年祭、ユニホーヤーの調査を行った（写真-2）。コロナ時に中止となっていた伝統行事が近年再開されているが、神事の手順、歌や踊りの継承、行事参加者の参集に課題があることがわかった。一方、新規の移住者、企業の協力等を取り入れ行事を継続しようとする取り組みが見られた。調査時に撮影した写真・動画は地区（区長）に送付し、儀礼に関する情報を共有した。

3) 伝統行事、生業活動、自然利用に関する調査

名護市嘉陽地区で行われる行事の様子について参与観察の調査を実施し、映像や画像を記録するとともに、参加者に行事に関する聞き取りを行った（表-1）（写真-3～14）。行事によっては、祭祀の内容、進行、手順について、執り行う者に迷いが生じる場

面が見られることがあり、参加者同士で話し合い確認しながら行うことがあった。コロナ時に行事が中断されたことと、年長者の不在が影響しているという話が聞かれた。

表-1 名護市嘉陽地区行事調査一覧

	行事名	備考
5/25	アブシバレー（虫払い）	区民の一人が害虫を乗せる船を作成
8/3	大網作りと綱引き	地区にて稲わらを調達
8/19	豊年祭	演者の多くが県外からの移住者
9/13	ウスデーク	雨天により初めて公民館で開催
10/22	二十日水撫でい	祭祀手順が不確定な部分がある
1/29	カーウガミ（川拝み）	回る井戸や川の場所に迷いあり

生業活動、自然利用について知るために嘉陽地区内で行われる水田稲作、干潮時のイノー歩きに同行し調査した。現在の水田利用として、稲作とマコモ栽培について話を聞き、大網作りのための稲わらの採取、加工、使用後の利用について記録を行った。イノー歩きに関しては、何を採取し食用とするか聞き取りを行った。一般には流通しないヒザラガイやアマオブネガイ科の貝を採取して食べていることなどがわかった。

11月11日、シーシー（獅子舞の獅子）の毛の材料づくりに参加し、イトバショウから繊維を取り出す過程を記録した（写真-15）。地区でシーシーの毛を作る作業を行うのは約50年ぶりということで、年長者にも作り方がよくわかる者がいないため、大宜味村から芭蕉布の職人を講師として迎え、イトバショウを切り倒す工程から教えてもらうワークショップが開催された。帯状に切り出したイトバショウの茎を、木灰を入れたアルカリ溶液で煮た後、繊維を取り出す作業となる。茎をしごいて繊維を取り出すためのトング状の道具、竹ばさみ（方名エービ）は、近くの山で調達してきたリュウキュウチク（方名ヤマダキ、ヤンバルダキ）を作業参加者が各自その場で加工して作る。この道具は消耗品であるため、リュウキュウチクが身近な山に豊富にあることも、イトバショウの加工作業において、道具の確保のため重要であることが職人から聞かれた。この日実験として、イトバショウの他、バナナも材料として用いられたが、バナナの繊維はうまく取り出すことができなかった。これにより参加者たちは50年前の記憶をたどりながら、シーシーの毛にはバナナは用いず

イトバシヨウのみを用いたのであると結論づけた。その後12月16日にも区民が集まりイトバシヨウから繊維を取り出す作業を行った(写真-1)。



写真-1 パナナの繊維(上)、イトバシヨウの繊維(下)
パナナの繊維はイトバシヨウに比べると短い。パナナの繊維は切れやすく、扱いにくいことがわかる。

4) 沖縄とオセアニアにおける植物利用、物質文化についての調査研究

石川県珠洲市上黒丸地区と名護市嘉陽地区について里山里海の環境利用を調査し比較研究を行うために文献調査を行った。1950年から現在にかけて土地利用の変化の特徴が、水田と薪(炭)を得る里山の利用に顕著であることがわかった(科学研究費基盤研究C「在来地を生かした多様な生物と共生する里山里海地域の構築」による)。

海域アジア・オセアニア研究プロジェクト(MAPS)国立民族学博物館拠点から招聘を受け、協力研究者として研究会・シンポジウム(5/10国立民族学博物館、12/1京都大学、2/1東京都立大学)に参加し、研究発表(次章後述)、および特にアダン、カジノキの利用に関する地域比較(沖縄、バヌアツ共和国、フィジー共和国、ソロモン諸島、パプアニューギニア)の調査情報の交換を行った。

科学研究費国際共同研究加速基金採択研究課題「アジア、オセアニア、マダガスカルにおけるデンブ食糧源としての大型サトイモ科植物」(研究代表ピーター・マシウス)について、9月より共同研究を開始し、2/17~19沖縄県北部においてサトイモ科植物の調査と石焼調理実験を共同で実施した(写真-16)。バヌアツ共和国島嶼部で行われている石焼調理を再現し、温度測定など記録を行った。東南アジアからオセアニア地域に進出した初期オーストロネシア人が救荒作物としてクワズイモを利用し運んだ仮説を検証するための実験として、クワズイモを石焼調理した(調理したクワズイモの成分は分析中)。また、クワズイモの利用に関する聞き取り調査を嘉陽地区にて行った。一部に葉を皮膚の傷病に塗布するなど伝統的な薬用利用があることがわかった。

3. 研究成果

調査結果、研究成果については、書籍等出版物、研究会・学会における研究発表、海洋文化館、沖縄県立博物館・美術館で開催した一般向け講座(海洋文化講座)に活用し情報を発信した。また調査時に撮影した写真、映像データについては、各地域の公民館に提供した。

【論文・書籍等出版物】

「山分けの島の分かち合いの食文化—バヌアツ共和国ツナ島の饗宴の事例から」『季刊民族学 190号』公益財団法人千里文化財団、2024年10月発行

「ウミガメを曳いて泳ぐ」『ザ・フィールドワーク』生態人類学会編、京都大学出版会、2025年3月発行

【研究発表】

「木造船からわかる海洋文化の多様な技術と文化：これからの文化遺産と研究者の関わり方について」海域アジア・オセアニア研究プロジェクト2024年度若手研究者集会(京都大学)(2/1)

「樹皮布制作の技法と社会性に関する地域比較研究」第42回日本オセアニア学会研究大会(青森県大鰐町)(3/24予定)

【一般向け講座・企画展】

・博物館文化講座「展示づくりの舞台裏—民俗展示と船」(沖縄県立博物館・美術館)(4/20)

・出張・海洋文化講座(沖縄県立博物館・美術館)講義(5/26、7/20、9/8、11/10)

・海洋文化講座(海洋文化館)講義(6/23、8/11、10/6、12/1)

・夏休み自由研究のタネ(おきみゅー)ポスター展示、民具の展示解説(7/30~8/4)

・企画展(海洋文化館)「沖縄ウミンチュの世界『潜る』古谷千佳子写真展」(12/22~1/26)

4. 外部評価委員会コメント

これまで沖縄を中心に行われてきた調査研究を、能登半島など国内の他地域に広げ、里山景観といった視点から比較研究を進めている点が評価される。また特定の植物素材やタロイモなどの食糧資源という具体的な対象を基軸にオセアニアとの比較を行い、国内の学会・研究会、海外とのワークショップなどを展開している点で今後の発展が期待できる。

(後藤顧問：南山大学人類学研究所特任研究員)

沖縄・奄美において調査を継続しているサバニ、海神祭・来訪神儀礼、年中行事、生業活動、植物利用などのフィールドワークを地元の人びとの協力のもとで着実に進め、その成果を地元に戻している研究方法は注目される。また、科学研究費や国立民族学博物館プロジェクトなどの外部資金による調査研究は、研究者にとって望まれる研究戦略の実践である。とりわけ、アダンやカジノキの利用、クワズイモ(*Alocasia* sp.)の無毒・食用化と石焼調理法の関連性の実験など、沖縄とオセアニアに共通する有用植物の活用方法の比較研究は、新しい研究領域開拓の可能性を期待できる分野として評価できる。

(須藤顧問：堺市立博物館館長)



写真-2 安部の海神祭の舾り



写真-3 嘉陽のアブシバレーの舟



写真-4 舟を海に流す様子を見守る



写真-5 嘉陽の大綱づくり



写真-6 3人1組で綱を織う



写真-7 綱引き後行われる子ども相撲



写真-8 嘉陽の豊年祭 道ジュネー



写真-9 シーシー（獅子）の登場



写真-10 豊年祭の舞台（松竹梅）



写真-11 嘉陽のウスデーク



写真-12 二十日水撫でい



写真-13 シーシー（獅子）の誕生祭



写真-14 嘉陽のカーウガミ



写真-15 シーシーの毛づくり



写真-16 石焼調理実験